

議 事 録

会 議 名	第4期寒川町まちづくり推進会議 第5回会議		
開 催 日 時	平成27年11月19日（木）午前10時～11時55分		
開 催 場 所	寒川町役場3階議会第1・第2会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>○出席委員 島村委員、大川委員(会長)、小川委員、村崎委員、菊地委員、大関委員、藤井委員、大谷委員、若林委員、山口委員、清田委員(副会長)、田邊委員、平本委員、今井委員、小林委員</p> <p>○欠席委員 谷村委員、森井委員</p> <p>○事務局 中島町民部長、芹澤協働文化推進課長、伊藤副主幹、内藤主事</p> <p>○傍聴者数 3名</p>		
議 題	<p>1 寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業について（資料4・5）</p> <p>①平成28年度実施事業提案募集スケジュールについて</p> <p>②まちづくり推進会議委員の協働事業選考委員会への参加について</p>		
決 定 事 項	<p>○議事録承認委員の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口委員、清田委員 <p>○協働事業選考委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回推進会議において、詳細を決定する。 <p>○次回まちづくり推進会議の日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林委員等と調整し、1月に開催する。 		
公開又は非公開の別	公 開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ （会長）任期が来年の6月末までなので、取りまとめの時期に入ろうかと思っている。今日は両委員会の報告等をいただきながら会議を進めていきたい。</p> <p>3 議事録承認委員の選出 （事務局）これまでのまちづくり推進会議（以下、推進会議）</p>		

では名簿順となっているので、山口委員と清田委員にお願いできればと思うがいかがか。

(山口委員) (清田委員) 了解した。

(事務局) この後の会議の進行については、寒川町まちづくり推進会議規則第4条により、大川会長にお願いしたい。

(大川会長) 早速報告事項に入る。報告をお願いしたい。

4 報告

(1) 協働PRチラシに関する意見等(資料1)

(事務局) 協働PRチラシは、協働PR委員会で検討を進め、推進会議からもご意見をいただきながら作成し、8月の広報に折り込み全戸配布をさせていただいた。チラシの全戸配布に係る当初予算はなかったが、予定よりも早く完成し、7月広報で「協働特集」を掲載したというタイミングも踏まえ、全戸配布を速やかに行う形になった。資料1は、作成および全戸配布について町議会の総務常任委員会協議会に報告を行った際に頂いたご意見となっている。頂いたご意見については、推進会議へご報告することとしていたため、本日資料としてお配りさせていただいた。また、2枚目はお一人の町民の方から、私の提案(町長への手紙)を通じて寄せられたご意見だが、同じく提案者の方へも推進会議にご報告すると回答していたため、本日の資料とさせていただいた。これらについては今後、推進会議を進めていく中で参考とさせていただくものと考えている。

(菊地委員) 当委員会は当初、協働のマニュアルを作成するということがあったが、検討を進めていく中で、マニュアルは町が作成するので、委員会では前段の部分をとということで協働PRチラシを作成したという経緯があるので、速やかに町でマニュアルを作成して頂きたい。町民の方のご意見については、(1) 1「理解・補完」については、「理解し、」や「理解の上」という文脈の方がわかりやすかったかと思ひ、勉強になった。また、(2) 1「行政主体」、「町民主体」については、「行政側から提案の例」のように記載した方がわかりやすかったかと思う。(2) 3については、最終的なチェックを小林委員にお願いしておけば、より厳重なチェックになったかと思うので反省するところだと思ひ。ただ、初めてチラシを作成したということを考えればこういった批判があるのも当然。この批判を次のチラシ作りやPR等に活かせればと思ひ。

(村崎委員) この意見に対して、個々に回答をするのか、それとも今後の参考としていくという考えで良いのか。

(事務局) 個人の方から頂いたご意見については、町長への手紙への回答をしているため、改めてこの場で議論するものではないと考えている。議会でご意見等いただいた部分は、その場で町として答弁をしている。

(村崎委員) 課題として残っているということではないのか。

(芹澤協働文化推進課長) 議会への回答について推進会議として何かしていただくということではなく、担当課の方で検討していくということと、推進会議にもご報告させていただくということで、回答し終えている状態。

(大川会長) お一人の町民の方からのご意見ということだが、その他にはなかったのか。

(事務局) 個別で協働文化推進課へお問い合わせはなかった。

(大川会長) いただいたご意見を参考としながら、今後改善を進めていきたいと思う。次に報告事項(2)について事務局より説明をお願いしたい。

(2) 平成26年度パブリックコメントの状況について

(資料2)

(芹澤協働文化推進課長) 本来であれば前回ご報告した際に記載されていないといけないものであるが、担当課へ照会した際に、前回ご報告した部分のみの回答だったため、今回網掛けの部分を追加でご報告する形になってしまい、申し訳ございませんでした。担当として、今後チェックを十分していく所存ですので、よろしく申し上げます。

(大川会長) 次に各委員会の委員長よりご報告いただきたい。

(3) 各委員会の検討状況等について

①協働PR委員会

(菊地委員) 9月28日に合同委員会を開催、11月10日に協働PR委員会を開催した。熟年パワーについて考え直そうということで、平成26年3月に高齢介護課で行ったアンケートの読み直しと、前期推進会議(熟年パワー社会還元研究部会)からの報告書を読み直し、内容をピックアップして議論した。今後は、熟年パワーのキャリアを活かして取り組むことや、ポイント制について、モチベーション維持のために対価のようなものを考えたい。ポイント制を導入している自治体の資料を収集

し、次回の会議にしたいと思う。資料を読むと机上での議論は出尽くしているので、失敗しても挑戦し、具体化するのが一番の課題だと思う。例えば、合同でみなさんを集めて大きな会を作り、町民の方々がやっているボランティア活動や趣味等を把握して前述の会とマッチングするようなことも考えていきたい。

協働PRチラシだが、せっかく作成しても配布して終わっている。ホームページのトップページで見られるのが理想だが、構成上難しければせめてバナー広告等のワンクリックでいけるようお願いできればと思う。目に触れる機会を作って頂ければと思い、事務局へも提案した。

(大川会長) 配布したままでは、一過性のものになってしまうので、その辺も役場で考えて頂きたいと思う。

(小林委員) 住民活動を上手く巻き込んでいくのがまちづくり推進会議の狙い。協働PRチラシを私に確認すれよかった、市民の方からも大学の専門家に聞いているのだから正しい答えを出せと言われるが、協働というのは正しい答えはないと思う。色々な価値観を持った人達が協働を自分で理解し、身近な問題を解決していくことに価値がある。菊地委員が発言されていた具体の活動を増やしていくことが大事で、その体制を寒川町にどう作っていくかが最も重要なところ。色々な活動が具体化して動ける支援体制をこの会議で議論していくことが何より重要だと思う。「お互いに理解をし合い」と書かれているが、お互いに理解できていないから、わざわざ協働を唱える。まずはそのことを理解した上で行動し、色々な価値観の方が気づいた問題を積極的に解決していくという姿勢を持つことが何より重要。それを邪魔しないようにお互い補完していく。みなさんの活動の方向性は、何も間違っていないと思う。

(清田副会長) 具体的に行動を移さないことには、熟年パワーの議論は出尽くしている。何でも良いので、行動ありきでインパクトあるものを出すことがポイントだと思う。

(大川会長) 次に、山口委員長より報告をお願いしたい。

(山口委員) 当初、小中学校の保護者の方にアンケートを出すため、校長会へご相談に行ったが協力できないとのことだったため、校長会を通さず来年度の町の予算へ計上し、予算確

定後、アンケート内容の見直しを行い、保護者の方へ郵送して回答いただく方向で動いている。空いた時間の活動として過去の推進会議からの提案に対する進捗管理をするため、町の対応状況について資料3にまとめた。

(事務局) 委員会の報告としてコンクリートされるものではなく、途中経過の資料としてお示ししている。

(山口委員) 委員会として進捗状況の判断をしているので、推進会議としてこの判断が良いかどうかはまた別に揉んで頂いた上で最終的なまとめになるのかと思う。

(事務局) 資料3は、最終的にまとめていく段階で判断をしていただく必要があると考える。

(山口委員) 細かい項目の提言に対して、一つ一つ判断できないという意見もあり、各カテゴリーの全体を見た判断基準となっている。

(大川会長) 右側に記載されている町の進捗状況について、今後委員会として多少検討するのか。

(山口委員) 女性の活躍の場研究部会が対応状況不明確で検討を要するため、当委員会のできる部分については具体的な検討をすると共に、アンケートを来年度初めに発送し、任期中に結果をまとめ、今後の町を担う世代の意見を提言する形で進めたい。

(小林委員) まちづくりワクワク委員会の活動は、今の山口委員長の考えで良いかと思う。以前にも問題点を指摘したが、本来であれば、この委員会は条例で定められた最高位の会議なので、協働事業の選定委員会などはこの委員会の部会であり、どの事業が重要だと推進会議で議論するといった機能を持つべき。同じ担当課で二つの事業に分かれて活動させている理由がどこにあるのか。

(事務局) 合同委員会を開催した際、小林委員の発言のように推進会議の部会として選考委員会を置くことをご提案したがそういう形ではなく、委員の何名かが参加する形の方が良いのではないかというご意見があった。

(小林委員) それはどういった理由なのか。

(事務局) 推進会議のみでそこまで負担を負うのは難しいのではないかというご意見をいただいた。

(小林委員) みなさんのご意見であれば特に問題はないかと思

う。だが、例えばボランティアポイントの事業や女性の推進事業が必要で具体の活動に入る場合には、協働事業の中に活動が組み込まれるべきだろうと思う。推進会議では方向性の議論をし、実際の選考委員会でどの事業が重要かと選ぶのが常識的な事業の運営方法かと私自身は理解している。
(大川会長) 他にご意見等あるか。なければ次の議題に入る。事務局より説明をお願いしたい。

5 議題

(1) 寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業について (資料4・5)

①平成28年度実施事業提案募集スケジュールについて

(事務局) 今年度事業を開始した中で、見えてくる課題や対応案が必要とされる状況にある。—資料4・5の説明省略—
今回ご提案させていただく部分は、スケジュールの事務局案についてご意見をいただきたいこと、推進会議委員のみなさんに選考委員会にお入りいただけるかということについてご承認いただきたいと考えている。

(村崎委員) 平成28年度については予算の裏付けはあると考えて良いのか。

(事務局) 最終的な予算については議会の承認を得る必要があるが、寒川町総合計画さむかわ2020プランに本事業は継続していくと掲げられているので、金額的な部分は別にして予算の担保はされていると考えている。

(菊地委員) 先日行った合同委員会で、一次審査や書面審査を設け、通過した事業を選考委員会に付託する等の意見があったと思うがいかがか。

(事務局) 補助金を交付するという性質もあるので、そのプロセスに何らかのものをかませしていくのは難しいと考えているため、一次審査等は、現在は案に盛り込んでいない。提案された事業の熟度をできるだけ高めて最終的な選考へ持っていくために、事前相談の時間を設けたい。

(芹澤協働文化推進課長) 今年度実施した中で、ある程度の期間を設け、申請内容のブラッシュアップをして頂く必要があると感じたので、正式な申請をいただく前に事前に団体との間で調整協議を進めたい。

(菊地委員) 案件が多く出た時に、全部推進会議委員が対応す

るのは難しいと思う。ワンクッション、形だけでも審査を経て、完全に協働事業に合致しない提案を省けるようにした方が良いと思う。

(事務局) 事前相談、協議、調整のところで、協働事業として成立するかというところは磨いていくので、合致しないものは一定程度フィルターにかけられていくと考えている。

(菊地委員) 事前協議でなかなか絞れないと思う。

(小林委員) 協働事業において、行政は全体の公共性を考え、どれだけ多くの人にとって有意義なお金の使い方かという視点で考える。住民の公共性は部分に対する公共性で、ある種の問題を解決することが、地域の少数の人達のためにとって公共性が高いので行動する。全体と部分のすり合わせが上手くいかないで、部分の公共性に偏らせながらも、問題の大きい所に予算を配分します、行政と一緒に事業をやりたいというように、部分に配慮した事業を実施することが協働事業の狙い。事前相談をすると、個別の問題を抱えて住民が提案をしても、事業内容が全体の公共性に直されてしまい、結局行政に相談しても上手くいかないと、事業を段々出さなくなってしまう。本来であれば、事前相談は書類を推進会議でどれが重要かとみなさんのご意見を聞き、選考委員会でさらに詳細な議論、行政の全体性との間で議論をするといった手続きをすると、先に住民の価値観でのプライオリティーがつくので妥当な結果が出ると思う。行政寄りの制度設計が出てしまっているのが、資料5の補助金で事業を実施するというところ。補助金というのは、住民が実施する事業のスタートアップに対して出すお金だが、行政と事前相談した上で協働としてしまっている。補助金でこういった事業を運営するのはあまりない。本来、行政と住民の協働については、1つの事業を行政の協力するお金と住民で用意する労力で事業を行うので、その倍の効果が得られるというのが普通。補助金ではなく事業費を出して住民は労力を提供するという構造になっていけば、それほど齟齬もなく運営できるのではないかと思う。行政だけで制度設計を急ぐとこういうことになってしまうので、みなさんのご意見を頂戴しながら制度設計をしていく方が良い。平成29年度事業については、もう一度制度設計を見直しつつ事業を進めていくことが必要。

(村崎委員) この提案制度が良いのか、上手くいくのかという

ことを含めて評価をしながら、町もしくは町長に対してこういう改革をしたら良いのではという提言をするほか、実施された協働事業の結果を踏まえて今後の改善における資料として役立てることが推進会議の提案制度に対する役割なのかと思う。(清田副会長) 最高位の自治基本条例の中に位置付けられている推進会議の位置付けを町がどう考えているのか。色々提案しても予算がなく、アンケートも実施できず本当に町はそれでいいのか。推進会議と提案制度が別歩きをしてしまうと、推進会議は何のためにあるのか。意見を集約して提案制度の中に展開し、実施した事業を評価して今後につなげていくものがないと推進会議の意味が別物になってしまっている。もう一度事務局に推進会議の位置付けを考えていただきたい。ここでのたたき台が、具体的な政策として実行されていないといつも空回り。予算の担保があるのであれば、もう一度見直し、会議の中で一次審査二次審査、全てお任せするので評価してください、その中で町は第三者を入れた客観性のある選考委員会で審査するといった改善したシステムを作っていないと。

(芹澤協働文化推進課長) 事前相談の前に一旦申請されたものを推進会議に投げて委員のみなさんのご意見をいただき、一次審査的なものをお願いするような形で要綱の一部改正を含め、考え直していきたい。委員のみなさんをお願いする形になるがよろしいか。

(大川会長) 事前相談は申請手続きに過誤がないかよりも細かい所まで行っていくと選考委員会はいらなくなってしまうが、どの程度まで行っていたのか。

(芹澤協働文化推進課長) これまでだと、正式な提案を先に受け、その後事業協力課と事業の中身について等の協議をしていた。団体の方が狙いとしている事業が協働事業としてふさわしいものなのか会議の中で一次審査的に実施し、その上で事業協議に入らせていただくのが良いのかと思う。

(小林委員) 事前相談の内容もよく吟味して、どういうレベルで判断するのかというところをしっかりとした方が良い。推進会議は毎年報告書を出すので、まず今年の選考された4事業、その他選考されなかった3事業も、本来協働事業として扱うべきものだったのかを会議で議論しその結果を報告書としてお返しする。その上で平成29年度の事業を修正していく。丁寧

にこの制度を修正していくことがとても必要。見直す姿勢を持って臨んでいただければ大丈夫だろう思う。

(大川会長) 次回会議もしくはその前に事前配布をしていただきたい。選考委員会の案についてご意見なければよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(若林会長) 提案する人は、いつ頃町行う事業の情報を得られるのか。

(芹澤協働文化推進課長) 年度で町がどのような事業を実施していくかについては、予算の審議が終わらないと最終決定しないので、年度当初になってしまう。

(若林委員) 身近にそういった周知を徹底してもらいたいのと、予算等の関係上一年遅れで実施になるということだが、提案をのせるタイミングとしては、そういうことを知っておいてもらった広報をしてほしいと思う。

②まちづくり推進会議委員の協働事業選考委員会への参加について

(村崎委員) 協働事業の選考委員会の委員については、この場で決めるのか、それとも次回推進会議で良いのか。

(事務局) 委員を決めるのは次回でも構わない。

(清田委員) 事務局に全部お任せでなく、学識経験者や公募等の情報を推進会議にあげていただき、この中で煮詰めていくやり方はどうか。

(芹澤協働文化推進課長) 来年度の見直しのために、1月くらいに要綱を一部改正し、この選考委員会の案でよろしければ事務局で人選を進め、次回会議でご提案することを考えた。その辺も含めて会議でもう一度叩く必要があるというご意見であれば、1月に会議を開かせていただく。

(大川会長) 日程的に間に合うのか。

(課長) 選考委員会は4月なので、ぎりぎり間に合う。

(大川会長) では全体の改善案のご了解をいただいたということで、他にご意見がなければその他に移りたいと思う。

(各委員) 意見なし。

(大川会長) では、その他について、事務局にお願いしたい。

(事務局) 次回の推進会議を当初2月とお伝えしたが、1月に開催させていただくということではよろしいか。

(各委員) 異議なし。

	<p>(事務局) 任期末に向けての動きも出てくるので、各委員会の開催もお願いしたいと思う。</p> <p>(小林委員) 自治基本条例の見直しについて、改正の議論をするのはこの場なのか。報告書の中で条例を見直さないといけない部分や協働事業提案制度は当初予定していなかった事業なので、次の任期の委員さんが議論するテーマの一つに、条例が本当に上手く機能しているのかという課題についても審議されるといいかと思う。</p> <p>(大川会長) 他にご意見等あるか。</p> <p>(各委員) なし。</p> <p>(大川会長) ないようであれば、事務局へお返しする。</p> <p>(事務局) 次回は1月に開催最後のまとめに向け、事務局も要綱の見直し等に努めていきたいと思うので、よろしくお願ひします。</p> <p>7 閉会 (清田副会長) ~午前11時55分閉会~</p>
<p>配付資料</p>	<p>○次 第 第4期寒川町まちづくり推進会議 第5回会議</p> <p>○資料1 協働PRチラシに関する意見等</p> <p>○資料2 平成26年度パブリックコメントの状況について</p> <p>○資料3 まちづくり推進会議からの報告書に対する町の対応状況等について (まちづくりワクワク委員会)</p> <p>○資料4・5 寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業について</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>山口委員、清田委員 (平成27年12月11日確定)</p>